

報道関係者各位

2012年8月21日  
森ビル株式会社

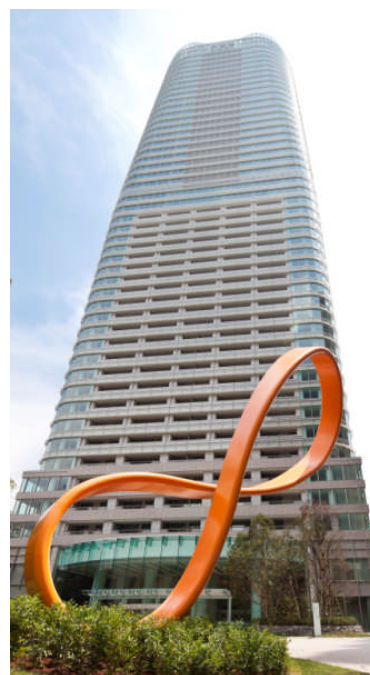
## 近隣企業とのコラボレーションによるパブリックアート完成

### エリアの発展や成長のシンボルが「アークヒルズ 仙石山森タワー」に登場

森ビル株式会社は、8月7日（火）に竣工したアークヒルズ仙石山森タワーに、近隣企業の協賛を得て、森美術館の監修により、パブリックアートを設置しました。

#### エリアのポテンシャルを無限遠に託した作品

《無限》と名付けられたこのパブリックアートは、ブラジルを代表するアーティスト、トミエ・オオタケによる新作で、このエリアの絶えることない発展や成長の願いを無限遠の記号に込めたものです。アークヒルズ 仙石山森タワーでは、この作品を含め3名の作家による作品10点を、レジデンス部分のエントランスやビューラウンジなど7箇所に設置する他、MAM POP-UP プロジェクト（※1）の一環として、工事中の店舗1区画でも期間限定で作品を紹介しています。



#### 地域の企業と連携したアートによるブランディング

《無限》は、全国でも珍しい、企業とのコラボレーションによって、エリアのブランディングのために制作したパブリックアートです。協賛社であるブラジル資源大手、ヴァーレ（※2）は、近隣の愛宕グリーンヒルズに日本支社を構え、今回は自国を代表するアーティストの作品が、自社と同じエリアのシンボルとして設置されることに賛同し、協賛に至りました。

#### **街づくりとアートの存在（監修者コメント）**

国際的な都市間競争が激化する中で、街のアイデンティティを明確に伝え、都市にヒトやモノ、情報などを引き付ける磁力としても機能するアートの存在は一層欠かせないものになっている。森美術館が培ってきたアートプロジェクトの経験を活かし、街づくりとアートを結び付けていくことは、森ビルと森美術館の特色であり、使命でもある。今後も、アートで東京を変えて行きたい。

森美術館館長 南條史生

#### **日本とブラジルの無限の可能性（協賛社コメント）**

ヴァーレにとって、長年に渡りパートナーシップを培ってきた日本でのプロジェクトに協賛することは、日本への感謝の気持ち、そして日本とブラジルの無限の可能性を象徴する大変意義のあることであると感じています。

ヴァーレ・アジア株式会社代表取締役社長 マルコス・トゥリーニ

街づくりのテーマのひとつに「文化・芸術」を掲げる森ビルは、今後も積極的に文化や芸術も活用し、アジアのヘッドクォーターを目指す東京の、真の国際都心形成に寄与すべく、アークヒルズエリアのデベロップメントとエリアマネジメントを推進して参ります。

#### **【本件に関してのお問合せ先】**

森ビル株式会社 広報室

住所：東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー 私書箱1号

TEL：03-6406-6606 FAX：03-6406-9306

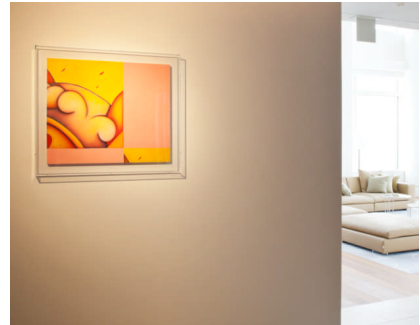
E-mail：koho@mori.co.jp



レジデンス 1F エントランスホール



レジデンス 25F ビューラウンジ



レジデンス 25F ビューラウンジ

## 作品一覧

設置場所	作家名	作品名	制作年	寸法	素材
エントランス	トミエ・オオタケ	無限	2012年	W10.4xH11xD4.7m	スチール
レジデンス1F エントランスホール	向山喜章	Luminousqu	2012年	各45x45x3.5cmx49点	ワックス、水彩
レジデンスB1F ELV ホール	向山喜章	slope 32C4 heurittglass	2007年	各32x32x5cmx2点	ワックス、油彩
レジデンスB1F 車寄せ	向山喜章	lintoe	2001年	176x32x7cm	ワックス、油彩
レジデンス1F ELV ホール	向山喜章	slope 32C4 laskyauroice	2007年	各32x32x5cmx4点	ワックス、油彩
レジデンス25F ビューラウンジ	ギヨーム・ボタージ	無題	2012年	50x60cm	油彩、カンヴァス
	ギヨーム・ボタージ	無題	2012年	150x100cm	油彩、カンヴァス
	ギヨーム・ボタージ	無題	2012年	150x120cm	油彩、カンヴァス
レジデンス25F ゲストルーム	向山喜章	slope 32C4 gravenskyritte	2007年	各32x32x5cmx4点	ワックス、油彩

### MAM POP-UP プロジェクト (※1)

- 1F 101 区画 (エントランス側) 立石大河亞 《FUJI HI-WAY》1992 年
- 1F 101 区画 (コリドール側) 立石大河亞 《ミクロ富士》1984 年

### ※1：MAM POP-UP プロジェクト

現代アートの理解、普及を目指し、森美術館の企画、監修により、街の空きスペースなどに、森美術館が所蔵する「森アートコレクション」や若手アーティストの作品を不定期に展示するアートプロジェクト。

### ※2：ヴァーレ

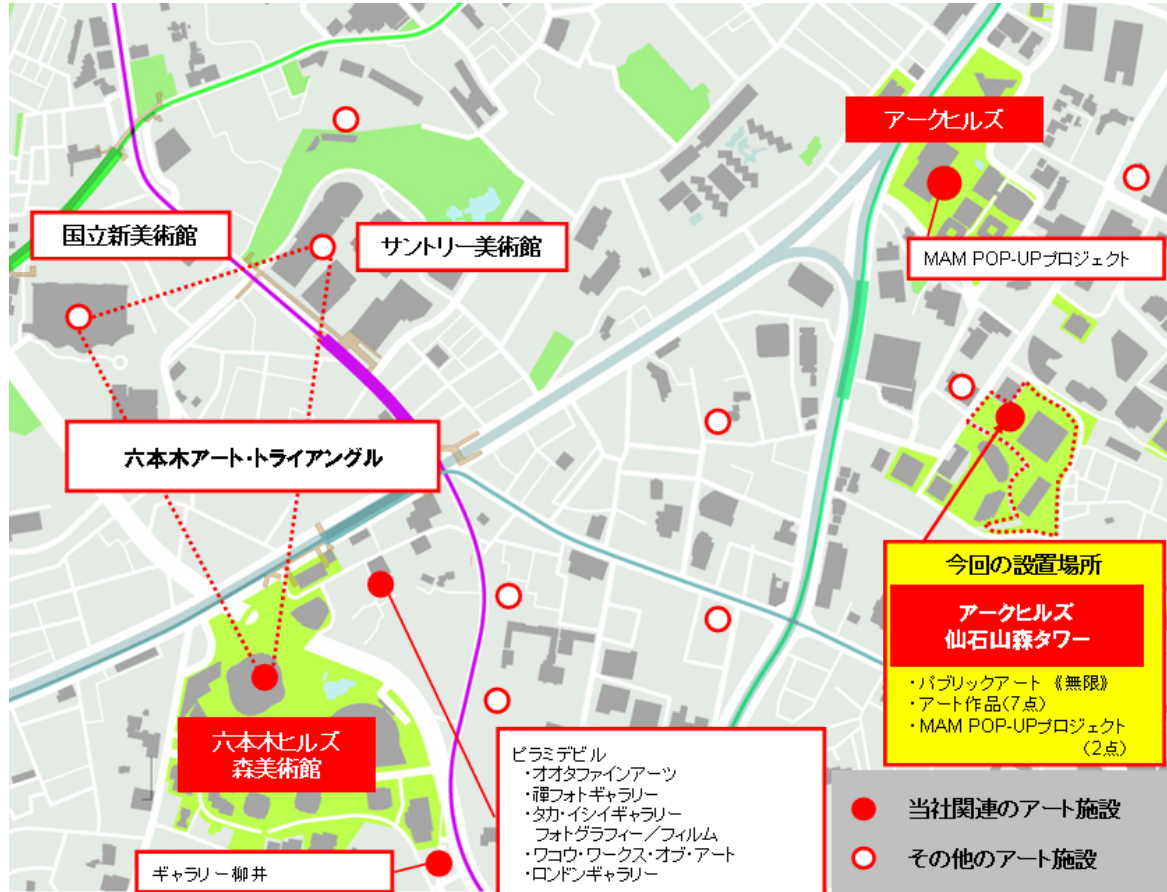
ブラジルに本社を置き、六大陸、37 カ国に拠点を構える総合資源開発企業。鉄鉱石のリーディングサプライヤーであり、ニッケル、石炭、マンガン、肥料、銅においても重要なポジションを担っている他、ロジスティクス、エネルギー、製鉄の分野でもビジネスを展開している。

### アーキヒルズ 仙石山森タワー

「アーキヒルズ 仙石山森タワー」は、約 2.0ha の施工区域に、地上 47 階の高層棟 (3~24 階:住宅、25~47 階:事務所)を中心に、敷地南側に地上 8 階の住宅棟を配置。生物多様性に配慮した緑あふれる空間が広がり、働く人、住む人、訪れる人にとって潤いある都市空間を実現しています。周辺には、緑が溢れ、大使館やホテル、コンサートホール、美術館などの文化施設も集積し、国際的な人や文化が交流するエリアです。「アーキヒルズ 仙石山森タワー」はアーキヒルズエリアが、アジアのヘッドクォーターとして発展していくためにも重要なプロジェクトです。



## 森ビルが目指すアートを生かした街づくり



森ビルは、街づくりにおけるミッションの一つに「文化・芸術」を掲げ、職・住と文化を備えた複合都市づくり目指し、コンサートホールを備えたアーケヒルズ（1986年）や、文化都心をコンセプトにした六本木ヒルズ（2003年）といった新しい都市の姿を実現してきました。

文化都心の象徴として敢えて六本木ヒルズ森タワー最上部に配した森美術館は、アジアにおける現代アートの拠点として、海外の美術関係者からも高い評価を受けており、併設する展望台施設などと合わせ年間約140万人（※3）もの人が訪れます。

また、森美術館、国立新美術館、サントリー美術館が連携しての「六本木アート・トライアングル」結成や、一晩で70万人（※4）を集める日本唯一のオールナイト型アートイベント「六本木アートナイト」の開催等を通してエリアの活性化を推進しています。

※3 2011年度の森美術館、森アーツセンターギャラリー、展望台東京シティビューの延べ鑑賞人数

※4 六本木アートナイト2012（2012年3月開催）の延べ鑑賞人数